

# 令和2年度（令和元年度分）

# 桐生市事務事業総合評価票

## I 事業の位置付けと概要

1 事務事業名		消防水利整備事業		整理番号	73	
2 予算科目		9 款	1 項	3 目	6 根拠法令等（主なもの）	7 新生総合計画での位置付け（基本計画）
3 事業期間		年度から	年度まで	消防組織法	8 総合戦略への掲載	
4 事務分類		法定受託事務	<input type="radio"/>	自治事務	9 市政運営方針での位置付け	
5 国県補助					10 市長公約での位置付け	無 No
11 事業概要	目的	誰・何を（対象）		どのような状態にしたいか（意図）		
		消防水利を		維持管理及び消火栓の整備をする。		
	方法	<input type="radio"/> 直接実施	<input type="radio"/> 委託・指定管理	<input type="radio"/> 補助金	<input type="radio"/> 貸付	<input type="radio"/> その他（ ）
12 主な業務内容（どのような業務を行っているか。事務量が多い業務を5つ以内で記載）						
業務名		業務内容概要				
消防水利の管理		全消防水利を点検し、必要により補修工事を依頼する。				
消防水利標示の管理		標示部分が破損している消防水利について、補修工事を依頼する。				

## II 事業実績(DO)

1 事務事業コスト		単位	30年度（実績）		令和元年度（実績）		令和2年度（見込み）		
コスト	事業費(人件費除く。)		千円	18,612		20,982		27,240	
	人件費		千円	3,456		3,456		3,456	
	内訳	職員	人/千円	0.48人	3,456	0.48人	3,456	0.48人	3,456
		嘱託・臨時職員・パート	人/千円		0		0		0
	総コスト		千円	22,068		24,438		30,696	
市民1人あたり（R2.3.31時点）		円	202		223		280		
財源内訳	国・県支出金		千円						
	起債		千円						
	受益者負担額（負担金、使用料、手数料、実費）		千円						
	その他特財		千円					7,000	
	一般財源		千円	22,068		24,438		23,696	
2 活動指標	消火栓新設	目標値	基	10		17		13	
		実績値	基	12		22		13	
		達成度	%	120.0		129.4		100.0	
	消火栓標示工事	目標値	箇所	30		8		21	
		実績値	箇所	30		8		21	
		達成度	%	100.0		100.0		100.0	
3 成果指標 (数値化が困難な場合はその理由も記載)	消火栓新設	目標値	基	10		17		13	
		実績値	基	12		22		13	
		達成度	%	120.0		129.4		100.0	
	消火栓標示工事	目標値	箇所	30		8		21	
		実績値	箇所	30		8		21	
		達成度	%	100.0		100.0		100.0	

### III 事業の評価(CHECK)

事務事業名	消防水利整備事業
-------	----------

どのような成果と効果が得られたか、可能な限り定量的に示す。また、評価に対する説明を分かりやすく記載する。	
<b>【有効性】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">A</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>得られた成果と効果を記載 (成果指標の達成度に対する評価及び過去との比較検討も含めて)</li> </ul>	消防水利の充実により、消防隊の迅速かつ効果的な消火活動となり、火災の拡大防止及び被害の軽減が図られる。 【平成31年4月1日現在】 公設消火栓 2,799か所 公設防火水槽 531か所 【令和2年4月1日現在】 公設消火栓 2,802か所 公設防火水槽 531か所
<b>【効率性】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">A</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>費用対効果の面から記載</li> </ul>	消防水利の適切な維持管理は、修繕費用を軽減でき、予防保全の観点から費用対効果は高い。
<b>【必要性】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">A</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業を継続することの意義、見込み数の変動等を記載 (事業の将来への見通し及び事業推進に当たっての課題等)</li> </ul>	災害に対応するため、消防隊が迅速かつ効果的な消火活動を行うには、消防水利の整備は必要である。
<b>【公平性・透明性】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">A</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>公平性が確保されているか、受益者負担は適切か、積極的に情報公開がされているかなどについて記載</li> </ul>	消防水利を市内全域に平準化を考慮し整備することで、全市民を災害から守る。
<b>【優位性・独自性】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">A</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の自治体(同様事業含む)との比較及び優位性・独自性があれば記載 ※「前橋市、高崎市、伊勢崎市、太田市、みどり市」の状況については、可能な限り記入する。</li> </ul>	他市についても同様の事業を実施している。
<b>【その他(特記事項)】</b> ※書面審査を行う上で、説明しておくべき事項を記載 例：補助金の交付における補助対象事業の総事業費など	【令和元年火災概況】 火災発生件数 50件、損害額 236,995千円、焼損面積 3593.2㎡、出動台数 264台

A：適切である。(既に必要な見直しを行っている場合を含む。)

B：概ね適切であるが、改善の余地はある。

C：見直しが必要である。

### IV 昨年度フォローアップ調査結果(CHECK)

令和元年度	最終評価結果	最終評価結果に対する具体的な改善内容等(担当課意見)
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	R1評価 未実施

### V 事務事業の改善(ACTION・PLAN)

一次評価 (担当課評価)	今後の方向性	改善点・見直し(案)等
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	現状のまま維持
二次評価 (内部評価)	今後の方向性	意見
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	現状のまま維持
外部評価	今後の方向性	意見
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	意見
最終評価	今後の方向性	意見
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	現状のまま維持

# 令和2年度（令和元年度分） 桐生市事務事業総合評価票

## I 事業の位置付けと概要

1 事務事業名 防火水槽新設事業		整理番号 74
		担当 部・局 消防本部 課・所・室 警防課 係(担当) 警防救助係
2 予算科目 9 款 1 項 3 目	6 根拠法令等（主なもの）	7 新生総合計画での位置付け（基本計画） ○
3 事業期間 平成23 年度から 年度まで	消防組織法	8 総合戦略への掲載
4 事務分類 法定受託事務 ○ 自治事務		9 市政運営方針での位置付け
5 国県補助		10 市長公約での位置付け 無 No
目的 誰・何を（対象）		どのような状態にしたいか（意図）
防火水槽を		計画的に整備する。
方法 ○ 直接実施 委託・指定管理 補助金 貸付 その他（ ）		
11 事業概要	事務事業の詳しい内容（R1年度実施した内容を必ず記載）	
	大規模災害に対応するため、消防体制の充実・強化が求められていることから、防火水槽整備計画に基づき、効果的かつ有効な場所に防火水槽を整備した。 ・防火水槽新設 1基（桐生市新里地内 40㎡）	
12 主な業務内容（どのような業務を行っているか。事務量が多い業務を5つ以内で記載）		
業務名	業務内容概要	
整備場所の確保	新設防火水槽整備場所を調査し、管理者に土地使用の承諾を受ける。	
整備場所の確保調査	土木課立会いの元、防火水槽整備場所の測量調査をする。	
現地確認	施工業者と取水口等細部調整をする。	
完成検査	設置完了後の水張り検査をする。	

## II 事業実績(DO)

1 事務事業コスト		単位	30年度（実績）		令和元年度（実績）		令和2年度（見込み）		
コスト	事業費(人件費除く。)		千円	6,956	6,490	8,000			
	人件費		千円	7,056	3,456	3,456			
	内訳	職員	人/千円	0.98人	7,056	0.48人	3,456	0.48人	3,456
		嘱託・臨時職員・パート	人/千円		0		0		0
	総コスト		千円	14,012	9,946	11,456			
市民1人あたり（R2.3.31時点）		円	128	91	105				
財源内訳	国・県支出金		千円						
	起債		千円	6,900	6,400	8,000			
	受益者負担額（負担金、使用料、手数料、実費）		千円						
	その他特財 一般財源		千円	7,112	3,546	3,456			
2 活動指標	新設防火水槽数	目標値	基	1	1	1			
		実績値	基	1	1	1			
			達成度	%	100.0	100.0	100.0		
			目標値						
3 成果指標 (数値化が困難な場合はその理由も記載)	新設防火水槽数	目標値	基	1	1	1			
		実績値	基	1	1	1			
			達成度	%	100.0	100.0	100.0		
			目標値						
		実績値							
		達成度	%						

### III 事業の評価(CHECK)

事務事業名

防火水槽新設事業

どのような成果と効果が得られたか、可能な限り定量的に示す。また、評価に対する説明を分かりやすく記載する。

【有効性】	<b>A</b>	大震災時には、消火栓が使用不能となることから、耐震性を有する防火水槽を整備することは有効である。 【平成30年度】 1基 【令和元年度】 1基
【効率性】	<b>A</b>	耐震性を有する防火水槽は、地震の影響を受けず、耐用年数が50年以上あることから費用対効果は高い。
【必要性】	<b>A</b>	消火栓は、大震災が発生すると水道管の破裂等で使用不能となることから、耐震性を有する防火水槽が必要となり、災害に強いまちをつくるためには、引き続き本事業を継続する必要がある。
【公平性・透明性】	<b>A</b>	防火水槽を市内全域に平準化を考慮し整備することで、全市民を災害から守る。
【優位性・独自性】	<b>A</b>	他市についても同様の事業を実施している。
【その他(特記事項)】		【令和元年火災概況】 火災発生件数 50件、損害額236,995千円、焼損面積3,593.2㎡、出動台数264台

A：適切である。(既に必要な見直しを行っている場合を含む。)

B：概ね適切であるが、改善の余地はある。

C：見直しが必要である。

### IV 昨年度フォローアップ調査結果(CHECK)

令和元年度	最終評価結果	最終評価結果に対する具体的な改善内容等(担当課意見)
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	<b>執行方法等の工夫・見直し</b>

### V 事務事業の改善(ACTION・PLAN)

一次評価 (担当課評価)	今後の方向性	改善点・見直し(案)等
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	<b>執行方法等の工夫・見直し</b>
二次評価 (内部評価)	今後の方向性	意見
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	<b>執行方法等の工夫・見直し</b>
外部評価	今後の方向性	意見
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	
最終評価	今後の方向性	意見
	現状のまま維持 執行方法等の工夫・見直し 縮小 終了	<b>執行方法等の工夫・見直し</b>